

JSOA 理事長挨拶

この度、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事長に就任いたしました弘前大学整形外科の石橋恭之です。学会員の皆様方にはこの場をお借りして、新任のご挨拶を申し上げます。

本学会は、整形外科スポーツ医学に関する事業を統一するために、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）と日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）が発展的に統合した学会です。すでに会員数約3,600名を擁する整形外科を代表する学会の一つです。ご存じのように、2020年から学会統合を見据え3年間にわたりJOSKAS/JOSSM合同学会を開催してまいりましたが、2つの学会は目的や性質、構成会員も微妙に異なり、これを一つにまとめるには様々な課題があることが明らかになりました。しかし、スポーツ整形外科を発展させるという共通の理念のもと、設立準備委員会では幾度となく議論を重ね、定款を練り上げ、今年6月1日にJSOAとして正式に発足に至りました。その目的は、『整形外科学および運動器科学におけるスポーツ医学の進歩、国内外での普及、及び次世代の人材育成を推進し、スポーツ医科学を通じた国民の心身の健全な発達、障害者の支援、高齢者の福祉の増進及び公衆衛生の向上並びに学術及び科学技術の振興に寄与すること』にあります。定款には学会活性化や若手会員に活躍の場を与えるために、若手中堅会員、女性会員の代議員への積極的登用を盛り込み（第4章第12条5、6）、それに準じて中堅・女性理事を理事会に迎え入れました。

JSOAでは、まずはこれまで両学会で行われてきた事業を継続したいと考えております。学術的發展を目的に、Outstanding Young Investigator Awardの表彰、プロジェクト研究助成を行います。次世代の人材育成を目的に、国内外のfellowshipを継続します。国内ではJSOAフェロシップを、また国際交流としては、JSOA-USA travelling fellow（AOSSM Annual Meet-

理事長／弘前大学整形外科
石橋 恭之



ing)、GOTS（Gesellschaft für Orthopädisch Traumatologische Sportmedizin）、SFA（フランス関節鏡学会）、そしてSIAGASCOT（Società Italiana di Artroscopia, Ginocchio, Arto Superiore, Sport, Cartilagine e Tecnologie Ortopediche）とのtravelling fellowshipを継続します。Fellowshipでは、通常の研修では得られない知識や経験が得られ、見聞や人脈を広げるいい機会となります。積極的に挑戦していただきたいと思います。また社会貢献の一環として、運動器疾患とスポーツ外傷・障害、スポーツ損傷シリーズもリニューアルし継続する予定です。日整会レジストリーJOANRの関節鏡レジストリーを継続運営し、今後のスポーツ整形外科治療の発展にも寄与していきたいと考えております。

今回、記念すべき第1回目のJSOA学術集会在、広島大学の安達伸生会長のもと6月29日～7月1日に広島で開催されました。学会テーマとして「和—スポーツ整形外科の伝承と革新—」を掲げられ、素晴らしい学術集会成为となりました。スポーツ整形外科ならではの企画やイベントも盛りだくさんで、参加者も大いに満足したのではないのでしょうか。また、学会直前には、ISAKOS（International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine）のnational partnership societyにJSOAが選ばれ、学会初日には調印式を行うこともできました。JSOAの門出に花を添えられたのではないかと思います。

伝統あるJOSSMとJOSKASを引き継いだJSOAの船出のかじ取りは、非常に責任が重く身の引き締まる思いであります。微力ながら本会が発展できるよう誠心誠意努力したいと考えております。会員の先生方にはご支援・ご指導を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

JSOA 2023 学術集会ならびに JSOA セミナーを終えて

安達 伸生 JSOA 2023 会長

(広島大学大学院医系科学研究科 整形外科学 教授)



2023年6月29日(木)から7月1日(土)の3日間、日本スポーツ整形外科学会2023(JSOA 2023)を、リーガロイヤルホテル広島および広島県立総合体育館にて開催いたしました。本学術集会は、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)と日本整形外科スポーツ医学会学術集会(JOSSM)が、ともに歩み寄って設立された学会であり、今回の2023年の学術集会が新学会としての初めての開催となりました。本学術集会では、会員の皆様をはじめ多くの方々にご参加頂き、最終的には2,283名(医師:1,583名、メディカルスタッフ:454名、初期研修医:47名、学生:25名、その他:174名)の方々にご出席頂きました。広島でのJSOA 2023におきまして、日本におけるスポーツ医学のさらなる発展のために素晴らしいご発表や活発なご議論を頂きましたこと、また若い研究者達に温かいご指導とご助言を下さりましたこと、厚く御礼申し上げます。

JSOA 2023では特別講演4セッション、教育研修講演20セッション、シンポジウム15セッション、パネルディスカッション12セッションなど、様々なスポーツ整形外科関連分野のプログラムにおいて、大変活発な討論が行われました。さらには「広島スペシャルトークセッション」として、森保一SAMURAI BLUE日本代表監督、越智光夫広島大学長、スポーツジャーナリストの二宮清純様にご鼎談頂き、招待講演等では青山学院大学陸上競技部の原晋監督、悪魔・アーティストのデーモン閣下、新日本プロレスの獣神

サンダーライガー様にご講演頂きました。また学会初日には、ISAKOS-JSOA Partnership Signing Ceremonyが行われ、アメリカ以外ではJSOAが世界で最初のNational Partner Societyとなり、JSOAの今後の世界への飛躍が期待される調印式となりました。この国際性の観点で言えば、JSOA 2023にはAOSSM-APKASS travelling fellowの4名を含め、合計19名もの海外演者をお招きしており、世界の最先端の動向を把握しながら交流を深めることのできる大変良い機会となりました。

さらに2023年8月24日(木)・25日(金)の2日間、JSOA 2023 セミナー(カダバーワークショップ)を札幌医科大学にて開催いたしました。このセミナーでは膝コースに16名の先生方、足コースに4名の先生方が参加され、様々な鏡視下の術式や解剖を経験できる大変貴重な機会となりました。会場をご準備頂きました札幌医科大学の方々、セミナーにおきまして講義やインストラクターをお願いさせて頂きました先生方、そして医学発展のためにご献体くださりました方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

JSOA 2023のテーマは、JOSKASとJOSSMの両学会から構築されたJSOAの発展と、被爆都市、平和都市広島での開催にあたり、平和を祈る心を込めて、『和—スポーツ整形外科の伝承と革新—』としました。この想いを少しでも多くの方々と共有できたのであれば、大変うれしく思います。最後になりましたが、学会の開催や運営に多大なるご支援を頂きました医療機関・企業・同門会の方々、また会員並びにご参加頂きました皆様方に、心より御礼申し上げます。



写真1: JSOA 2023 第1会場



写真2: ISAKOS-JSOA Partnership Signing Ceremony

JSOA 2023 受賞者のことば

ベスト口演賞

KKR 北陸病院 浅井 一希

半腱様筋腱の質は骨端線閉鎖前後で変化する ～移植腱に着目した若年者 ACL 再建術後成績不良因子の検討～

日本スポーツ整形外科学会 2023 においてベスト口演賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます。この研究では骨端線閉鎖前後で半腱様筋腱の微小構造と力学的特性を評価し、骨端線開群群の腱組織はコラーゲン線維径が細く力学的により伸びる組織であることを報告いたしました。このような名誉ある賞を頂き誠に光栄に思います。今後ともスポーツ医学の発展に貢献できるよう研鑽に努めていきたいと存じます。



東京大学スポーツ先端科学連携研究機構 水谷 有里

大腿四頭筋肉ばなれを受傷する女子サッカー選手のジャンプ動作の特徴 — UTSSI スポーツ損傷予防プロジェクト —

この度はベスト口演賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。本研究は前向き調査によって、大腿四頭筋肉ばなれを受傷する女子サッカー選手は片脚 Drop Vertical Jump の Toe off のタイミングで膝屈曲角度、下腿前傾角度、足関節背屈角度が小さいことを明らかにしました。発表にあたりご指導いただきました武富修二先生をはじめ、休日を返上してボランティアで研究に協力して下さった仲間たちに、この場をお借りして深謝申し上げます。これからも肉ばなれ離れせず、研鑽して参りますので宜しくお願い致します。



ベストポスター賞

弘前大学整形外科 石橋 恭太

シングルセル RNA シーケンスによるマウス内側側副靭帯の加齢性変化の解析

この度は大変名誉のある素晴らしい賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます。選考にご尽力頂いた先生方に深謝致します。この研究は、大阪大学再生誘導医学寄附講座に留学していた際に行った基礎研究の成果であります。この場をお借りしてご指導・ご協力頂いた全ての方々へ厚く御礼申し上げます。私の研究結果が今後のトランスレーショナルリサーチに役立つことを願っております。



聖隷佐倉市民病院 伊勢 昇平

難治性外側上顆炎の心因性要素と臨床スコアおよび疼痛との関連性

この度は栄誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。本研究は難治性外側上顆炎と心因性要素との関連性を Pain catastrophizing scale を用いて評価を行った研究です。ご指導いただきました落合信靖先生、橋本瑛子先生、精神科の田村真樹先生、大鳥精司教授ならびに同門の諸先輩方とご選考いただきました先生方にこの場をお借りして深謝いたします。今後とも研鑽に努めて参りますのでよろしく願いたします。



Outstanding Young Investigator Award (OYIA) 受賞者のことば

獨協医科大学埼玉医療センター整形外科 片桐 洋樹

この度は栄えある 2023 年度日本スポーツ整形外科学会 Outstanding Young Investigator Award に選出いただき、研究のご指導を頂きました古賀英之教授、東京医科歯科大学、獨協医科大学埼玉医療センターの先生方、そして本賞の御選考を頂いた選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。選考対象論文には東京オリンピックでの肉離れに関する論文が入っており、日本全国のスポーツドクターの先生方に支えられての受賞になりました。誠にありがとうございました。今後とも精進してまいりますのでよろしくお願い致します。



神戸大学大学院 整形外科 篠原 一生

この度は、栄誉ある OYIA 賞を授与頂き誠にありがとうございます。選考頂きました先生方に深く御礼申し上げます。本賞の対象業績は神戸大学大学院で行った基礎研究や人工知能技術の臨床応用に関する研究です。御指導御鞭撻を賜りました黒田良祐教授、美船泰先生、乾淳幸先生をはじめとする同門の先生方に深謝申し上げます。この賞を励みとし、少しでも整形外科の発展に寄与できるよう精進して参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。



大阪府済生会中津病院整形外科 木下 拓也

この度は栄誉ある OYIA 賞を授与頂き誠にありがとうございます。本賞の対象業績は大阪市立大学大学院で従事した半月板、軟骨の基礎研究、ACL の cadaver 研究、外側円板状半月板の骨形態についての研究であります。ご指導賜りました橋本祐介先生、中村博亮教授をはじめ同門の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。今後はこの賞を励みとして更なる努力をして参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



JOSKAS-SIAGASCOT Traveling Fellowship 2023 の参加報告

前半

岐阜大学大学院医学系研究科整形外科学 小川 寛恭



2023.4.1-4.16の期間、イタリ3都市、ボローニャ、ローマ、ミラノを無事訪問させていただきましたのでご報告いたします（前半は私、後半は小倉先生）。まず初めに、このような大変貴重な機会を与えて頂きました JOSKAS の選考委員および関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。また、Godfather としてご同行いただきました大阪保健医療大学中村憲正先生と同じくフェローの船橋整形外科みらいクリニック小倉誉大先生という素晴らしいメンバーでこそこの掛け替えのない充実したフェローシップを過ごせました。ボローニャでは Instituto Ortopedico Rizzoli の Zaffanini 先生がホストとして、施設見学、互いのプレゼンとディスカッション、手術見学、ディナー等こちらの身が持たないほどもてなして頂きました。赤煉瓦で統一された町の景観はとても印象的で今回のフェローシップと強くリンクされていて一生忘れることはないと思います。続いてローマでは、今回の SIAGASCOT の会長でもある Concordia 病院 Giacomo 先生、Sant' Andrea 大学の Monaco 先生、Bio-Medico 大学 Papalia 先生がホストとして迎えてくださいました。ローマの街の雰囲気はボローニャとガラリとかわり、歴史的な深遠さもあがりながら観光地としての華や

かさ、合わせて複数都市を移動するフェローシップのダイナミックさも感じました。イタリア人はゆっくりしているイメージがありましたが、第一線で活躍されている先生の勤勉さは想像以上で感服させられました。（後半に続く）



何杯飲んだか？ コーヒーはエスプレッソです！
左から私、小倉先生、中村先生、Monaco 先生

後半

船橋整形外科みらいクリニック 小倉 誉大



最終目的地であるミラノでは2施設を訪問し、Humanitas Research Hospital の Marcacci 先生、Kon 先生、Orthopaedic Institute CTO の Randelli 先生がホストとして迎えてくださいました。日本では行われていない治療も含め様々な膝の手術を見学させて頂き大変勉強になりました。ミラノは国際的な都市で、多様な人種が行き交い、非常に活気を感じました。最終の2日間は SIAGASCOT 2nd Annual Meeting に参加し、我々 Travelling fellow も発表の機会を頂くとともに、学会期間中は、広島大学の安達伸生教授ともご一緒させて頂きました。最後の最後まで現地の先生方による非常に手厚く親切なおもてなしに感謝と

感激の連続で、一生忘れられない2週間となりました。また第一線で活躍されておられる先生方と、屈託のない議論を交わすことができ、治療に対する情熱や、学術に対する高い探究心に感銘を受け、大きな刺激を頂き、これからまだまだ医師として成長していきたいと改めて感じました。

最後にこのような機会を頂いたことに感謝し、今後も貴重な体験ができる本プログラムが継続をされることを祈念し、微力ながら交流の一端を担えるようこれからも研鑽を積んでいきたいと思っております。



Humanitas Research Hospital 手術室にて
左から私、Marcacci 先生、Kon 先生、中村先生、小川先生



Randelli 教授のご自宅に招かれて
左から私、安達先生、Randelli 先生、中村先生、小川先生

GOTS Traveling Fellowship 報告記

弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 木村 由佳

神戸大学大学院医学研究科整形外科学講座 星野 祐一



第31回 GOTS-KOSSM-JOSSM travelling fellow として、GOTS 関連施設を訪問させて頂きました。KOSSM から JP Yoon 先生と SH Lee 先生、JOSSM から弘前大学の木村由佳と神戸大学の星野祐一が参加しました。当初、2021年の予定でしたが COVID-19 流行のため延期され、今年ようやく実現にこぎつけました。

5月19日から6月17日までの28日間でドイツ(独)4都市、オーストリア(奥)3都市、スイス(瑞)2都市の計10都市を訪問し、各地でカンファレンス参加、臨床及び研究施設見学、さらに社会見学等を通じ、GOTSの先生方と交流を深めました。特に手術見学は30件を超え、各フェロー数件ほど手洗いもさせて貰いました。旅程の最後にルクセンブルクで GOTS annual congress に参加しました。以下に都市毎のトピックを報告します。

Osnabrück (独)。Engelhardt 教授をはじめ多くの先生方に暖かく歓迎していただきました。Klinikum Osnabrück (写真1) ではTKAや肩関節手術を見学し、市内観光ではドイツの歴史を学びました。

Rostock (独)。この時期は夜9時近くでも明るく、手術見学後にビーチツアーを楽しみました。

Berlin 独。Peterson 教授のACL不全に対するslope-reduction osteotomy など興味深い手術が行われていました。週末はオペラ鑑賞やカヌーツアーなど、ドイツ流の休日を満喫しました。

Krems (奥)。Nehrer 教授とドナウ川沿いの美しいレストランで食事をし、翌日に研究室の先生方を交えてプレゼンテーションを行い、軟骨修復の手術を見学しました。

Wien (奥)。EU最大級のウィーン総合病院で手術のほか、病棟回診や救急システムを見学しました。オペラ座でのバレエの練習やクリニックでの外来見学、ウィーン大学での研究会にも参加し、芸術や歴史を含めた欧州古来の学

びを得ました。

Salzburg (奥)。

Unfallkrankenhaus

Salzburg (直訳：ザルツブルグ外傷病院)を見学しました。名前の通り整形外傷専門病院でACL再建術をはじめ、多くの手術見学をしました。

Basel (瑞)。実質1日だけの滞在で、半日は手術見学をし、残り半日はバーゼル大学の研究室を見学しました。

Zurich (瑞)。週末を挟んで4日間滞在しました。大学病院の外来、特にスポーツリハビリ施設なども詳しくご紹介いただきました。最新のVRを用いたリハビリ機器なども体験しました。週末には関連スポーツチーム(ハンドボール)を観戦し、スポーツ整形外科の醍醐味を知ることができました。

Heidelberg (独)。ATOSクリニックというPrivateのクリニックは数多くの手術が同時進行で行われるHigh volumeな施設でした。世界遺産のハイデルベルク城が一望できる丘へホストのBerrische先生と一緒にランニングも楽しみました(写真2)。

Luxemburg。GOTS annual congress では我々フェロー4名のセッションがあり、この旅で訪問した施設の先生方が多数集まり、再会を喜ぶと共に有意義な議論を交わしました。

最後にこのフェローシップを実現に導いていただきました弘前大学と神戸大学の整形外科教室の先生方、JOSSM国際委員会含め関係者各位の皆様へ深く御礼を申し上げます。この経験を糧とし、今回のフェローシップで繋がった貴重な縁を大切にして、今後日本と韓国および欧州との架け橋となるべく臨床と研究、国際交流に力を注いで行こうと思います。



写真1. Klinikum OsnabrückにてホストのEngelhardt教授(右から4人目)Grim先生(右から2人目)Kracke先生(左端)、と一緒に撮影。筆者木村(左から3人目)と星野(右から3人目)。



写真2. Heidelberg城をバックに、ホストのBerrische先生(左端)と一緒に撮影。筆者木村(左から2人目)と星野(右から2人目)。

JSOA 役員挨拶

● 副理事長 ●

早稲田大学
スポーツ科学学術院 **熊井 司**



このたび、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の副理事長という大任を拝命し、大変光栄に存じております。皆さんもご存知の通り、JSOA は歴史ある日本整形外科学会と日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会のスポーツ医学部門が1つになり、2023年に新しく誕生した学会です。多くの会員を擁し、とても勢いのある学会の役職として責任の重大さを痛感しております。同時に、財務担当理事として会員の皆様が受益者となるべく、一般社団法人の盤石な経済基盤を確立したいと考えております。浅学非才の身ではございますが、本学会の更なる発展に貢献できるよう尽力いたす所存です。ご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪保健医療大学 **中村 憲正**



大阪保健医療大学の中村憲正です。この度は石橋理事長を補佐すべく、JSOAの副理事長に就任いたしました。

JSOAはJOSSM、JOSKASの2学会が統合し、日本におけるスポーツ整形外科に特化した随一の学会として誕生いたしました。本学会がカバーすべき領域は多岐にわたりますが、私としましては特に将来を担う若手の先生方が国際的に活躍していただくためのフォーラムとして本学会が発展できるよう尽力したいと考えております。現在、世界に目を向けますと、マルチメディアの普及とともに学会間の交流はダイナミックに加速し、様々な取り組みが生まれております。一方、我が国でしかできない独創性のある研究を守り、育てて世界に発信することも重要です。

JSOAがJOSSM、JOSKASの遺産の継承と新たな風の取り込みの舵を的確に取り、世界を代表するスポーツ整形外科の一大勢力として発展できるよう皆さんと歩んで参る所存です。

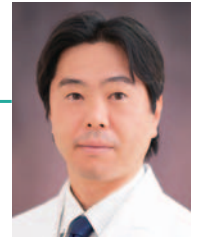
● 理事 ●

滋賀医科大学整形外科 **今井 晋二**



滋賀医科大学整形外科の今井晋二でございます。我が国はスポーツの多様化が進みコンタクトアスリートを診る機会も増えました。彼らの抱える問題の一つに反復性肩関節脱臼があります。また、スポーツ人口の高齢化によって、修復が困難な腱板断裂の比率も上がっています。既に確立された鏡視下肩関節手術ですが、修復の困難な腱板断裂や大きな骨欠損を伴う脱臼などには改良・発展の余地があります。肩の分野のみならず全ての分野で本学会の少しでもお役に立てるよう精進したいと思います。

東京医科歯科大学大学院
運動器外科学分野 **古賀 英之**



このたび、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の理事に就任させていただくことになりました東京医科歯科大学運動器外科学の古賀でございます。私はこれまでJOSKASにおいて国際委員会の理事を務めてまいりましたが、その経験をもとにJSOAにおいても国際委員会の担当理事を拝命いたしました。これまでJOSKASとJOSSMが築き上げてきた国際交流を発展させ、日本のスポーツ整形外科の国際的なプレゼンスをさらに高めていきたいと思っております。会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

徳島大学整形外科 **西良 浩一**



まず、日本スポーツ整形外科学会の発足、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。私は昭和63年に卒業とともに関節スポーツ医学班に属し、野球肘の臨床研究と骨格筋の基礎研究を行いました。卒業7年目、腰椎分離症を中心とした脊椎スポーツ医学班に専門が変わりました。このように、卒業から36年間は一環としてスポーツ医学に従事してまいりました。整形外科医師中心の統一スポーツ医学会の新しい門出に理事に選出されたこと、会員皆様方に御礼申し上げます。

私の担当はメンバーシップ委員会でございます。JOSSMとJOSKASから希望される先生方がメンバーとなり、現在、その事務的作業を行なっている所でございます。見込みではJOSSMの時のメンバー数より1.5倍の会員数となる予定です。スポーツ医学の発展のため、JSOA発展のために、粉砕砕身尽力する所存です。皆様、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

慶應義塾大学医学部
スポーツ医学総合センター **佐藤 和毅**



この度、日本スポーツ整形外科学会の理事に就任させて頂くことになりました。今後ますますの発展を目指す本学会の運営に携わること身の引き締まる思いです。スポーツ整形外科、手・肘の外科、そしてスポーツ医科学を専門とする医師として、熱意を持って本学会の発展に寄与してまいります。浅学非才の身ではございますが、会員の先生方にとりまして魅力ある学会になるよう微力ながら尽力いたす所存です。皆様の温かいご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

東京スポーツ&
整形外科クリニック **菅谷 啓之**

このたび日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の理事を拝命し、大変光栄に存じますとともに責任の重さを痛感致しております。本学会の前身の JOSSM には 1993 年に入会して以来、スポーツ選手の肩関節・肘関節障害の治療を自分のライフワークと定め、本学会と深く関わらせて頂いてまいりました。2013 から 2017 年までは国際委員会担当理事として、2018 年からは黒田良祐担当理事のもと、国際委員長として 4 年間務めさせて頂いてまいりました。JOSSM 時代の国際委員会は、AOSSM、GOTS および KOSSM との交流でしたが、2020 年以降の思いもかけぬコロナ禍によりこれらが完全にストップしました。しかしながら、2023 年の JSOA の船出と共にトラベリングフェローの派遣と受け入れが再開されております。新生 JSOA では石橋恭之理事長から広報委員会担当理事を委嘱され、委員長に指名させて頂いた前達雄先生を中心に、JSOA 発足前から学会ロゴの作成とホームページの作成に委員全員で尽力しまして、6 月の第 1 回 JSOA 開催に間に合わせる事ができました。今後ニュースレター作成やパンフレットのリニューアルなどの広報委員会業務を進めていきますが、同時に国際委員会の方でも国際交流推進のサポートをさせて頂きます。また、新設のプログラム委員会も担当させて頂き、第 2 回 JSOA のサポート、および主催させて頂く第 3 回 JSOA に向けての準備も鋭意進めていきます。旧学会の伝統を継承しつつ新学会 JSOA が発展できますよう誠心誠意努力する所存ですので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



山形大学
整形外科学講座 **鈴木 朱美**

長い歴史を持つ JOSSM と JOSKAS が、発展的に統合し新しく JSOA として出発いたしました。その理事のひとりとして拝命させて頂き大変光栄に存じます。世界で戦っているアスリートのみならず、学生、スポーツ愛好家、障害者など多くの方々健康で楽しくスポーツをするために、この学会が熱い議論をかわす場となり、またスポーツ医学の発展に寄与する学会になるように理事として努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



東京大学大学院医学系研究科
整形外科 **武富 修治**

このたび、日本スポーツ整形外科学会の理事を拝命し大変光栄に存じます。私は ACL 再建術などに関するスポーツ整形外科領域の臨床研究、スポーツ外傷・障害の予防に関する前向きコホート研究、バイオメカニクス研究、サッカーなどのスポーツ現場のメディカルサポートなどに携わって参りました。本学会が将来の日本のスポーツ整形外科を担っていく先生方が活発に議論できる場となるよう微力ながら尽力させて頂く所存です。会員の皆様にはご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



宮崎大学
医学部整形外科 **田島 卓也**

この度、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の理事を拝命いたしました宮崎大学医学部整形外科の田島卓也でございます。日本整形外科スポーツ医学会および日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会は整形外科医として成長させていただいた大切な学会です。これらが発展的に統合され新たに発足した JSOA に携わることができ、光栄に存じます。浅学菲才の身ですが JSOA が今後発展していけるように尽力したいと思います。会員の先生方にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



広島市民病院 **出家 正隆**

スポーツ医学に携わる者として新学会日本スポーツ整形外科学会の発足大変うれしく思います。また本学会の理事を拝命して大変光栄に存じます。理事会では定款委員会を担当させて頂きます。新学会運営の基本となる定款に基づき細則等について検討し、よりよい学会運営が行われるよう努力させて頂きます。大学から一般病院に移りましたので、市中病院の視点からも、本会の発展に寄与できるよう精進いたしますのでよろしくお願い申し上げます。



札幌医科大学
医学部整形外科学講座 **寺本 篤史**

この度は、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の理事を拝命し、大変光栄に存じます。新しい学会である JSOA の発展に貢献できるよう最大限尽力する所存でございます。理事として、教育研修委員会を担当させて頂くことになりました。Award や研究助成、フェローシップなど、本学会にとって重要な事業を厳正に進めてまいります。会員の皆様が本学会活動を通して、スポーツ整形外科の教育や研究を推進できるよう尽力してまいりますので、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



名古屋市立大学
整形外科

野崎 正浩



この度日本スポーツ整形外科学会理事を拝命致しました、名古屋市立大学整形外科野崎正浩です。本学会は日本整形外科学会と日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科（JOSKAS）学会が合併して新たなスポーツ学会として発足しました。今後日本のスポーツ整形外科を牽引してゆく本学会の新任理事として、微力ではありますが若手の先生方が活躍し世界に羽ばたいて行って頂けるよう、学会発展のお手伝いをさせて頂く所存です。宜しくお願い致します。

国立スポーツ科学センター
スポーツ医学・研究部

半谷 美夏



このたび、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事に就任させていただくことになり大変光栄に存じます。様々な形でスポーツに関わる日本の整形外科医が一同に会する新たな学会の初代の理事という大役に、大変身の引き締まる思いです。既存の枠にとらわれず、スポーツ現場での活動やトップアスリートの診療等で得た知識や経験をいかして学会の発展に少しでも貢献したいと考えております。会員の皆様には、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

東京慈恵会医科大学
整形外科

舟崎 裕記



この度、日本スポーツ整形外科学会の理事を拝命し、身に余る光栄とともにその重責を痛感しております。私は社会保険委員会を担当させていただきます。今後、会員の皆様のご要望に応じた活動を行ってまいります。2つのスポーツ学会が合併され、新たな学会としての船出となりますが、今までの伝統を継承しつつ、本学会がスポーツ関連傷害に対してイニシアチブをとって現場との連携を含めた系統的な治療体系を構築していけるよう鋭意努力する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

慶友整形外科病院 古島 弘三



新たに日本スポーツ整形外科学会の立ち上げに伴い、初代の理事を務めさせていただくこととなりました。日本整形外科学会とスポーツ学会の尊い歴史と伝統を受け継ぎ、一人ひとりの会員のみならず、スポーツ医学の更なる飛躍と社会への継続的な貢献を目指してまいります。未来のスポーツ医学のため、最善を尽くして取り組む所存です。まだ若輩ではございますが、皆様のご支援とご協力を賜りながら進んでいきたいと存じます。

● 監事 ●

神戸大学大学院医学研究科
外科系講座整形外科学

黒田 良祐



このたび、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の監事に就任させていただくことになりました。私は膝関節外科・スポーツ整形外科・再生医療等を専門として実臨床および基礎研究を行っております。本学会の前身である、JOSKAS、JOSSM では理事を務めており、国際委員会などを通して深くかかわらせていただいております。微力ながら本学会の発展に尽力致す所存でございます。会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

奈良県立医科大学
整形外科学教室

田中 康仁



JSOA の監事として新たな学会の立ち上げに関わることができ、大変光栄に存じております。新体制のもとで学会が軌道に乗るまで、しっかり見守ることが職責であると考えております。JOSSM と JOSKAS における海外とのトラベリングフェロースhipはそのまま引き継がれましたので、若手の先生方はそれらを登竜門として、是非世界に羽ばたいてください。アスリートのために活躍されているすべての会員の方々にとって、本学会がホームグラウンドになれるように努力いたします。

日本スポーツ整形外科学会 2024 (JSOA2024)

会期 2024年9月12日(木)~9月13日(金)
 会長 熊井 司 (早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)
 金岡 恒治 (早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)
 テーマ 「學」 -スポーツ医科学の学び舎-
 会場 早稲田大学 大隈記念講堂 早稲田キャンパス
 〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1
 リーガロイヤルホテル東京
 〒169-8613 東京都新宿区戸塚町 1-104-19

運営事務局 株式会社ハドル 内
 〒160-0022 東京都新宿区新宿 3 丁目 5-6
 キュープラザ新宿 3 丁目 6F
 TEL : 03-6322-7972 FAX : 03-6369-3140
 E-mail : jsoa2024@huddle-inc.jp

併催 第21回日韓整形外科学スポーツ医学会
 合同シンポジウム
 2024年9月14日(土) 大隈記念講堂
 学会HP <https://www.huddle-inc.jp/jsoa2024/>
 演題募集期間 2024年3月中旬~4月末(予定)
 主催事務局 早稲田大学 スポーツ科学学術院
 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15



2025年 会長 菅谷 啓之 (東京スポーツ&整形外科クリニック 医療法人社団 TSOC 理事長)
 会期 2025年9月12日(金)~13日(土)
 会場 ザ・プリンスパークタワー東京

2026年 会長 中村 憲正 (大阪保健医療大学 教授)
 会期 2026年9月17日(木)~19日(土)
 会場 大阪国際会議場

編/集/後/記



日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) と日本整形外科学スポーツ医学会 (JOSSM) が統合され、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) として生まれ変わりました。これまで各学会で会員との情報共有の場として JOSKAS では 2014 年から、JOSSM では 1998 年からニュースレターが発刊され、JOSKAS は第 24 号、JOSSM は第 22 号まで発行されています。新学会にも継承されたニュースレターの記念すべき第 1 号では、理事長に就任された石橋恭之教授と、第 1 回となる JSOA 2023 学術集会の会長を務められた安達伸生教授からご挨拶をいただきました。また、各種アワード受賞者のご紹介に続き、これまで JOSKAS および JOSSM が築き上げてきた海外学会との交流事業である JOSKAS-SIAGASCOT、GOTS-KOSSM-JOSSM フェローシップの参加者からもご報告をいただきました。最後に新学会の役員からのご

挨拶を掲載しております。

インターネットで多くの情報が入手できる現代においてデジタル化、ペーパーレス化の流れが進んでいますが、紙面として手元に届くことで目に留まりやすいというご意見も根強いので JSOA 広報委員会では紙面およびウェブ掲載の併用でニュースレターを発行してまいります。また、年 2 回のニュースレターに加えて学会ウェブサイトも充実させることで学会員の皆様に有用な情報をタイムリーにお届けする所存です。皆様からのご意見を頂戴して内容をさらに充実させ、皆様にご活用いただけるニュースレターを発行することで整形外科学スポーツ医学の発展に微力ながら貢献できれば幸いです。

赤木 龍一郎

医療法人社団淳英会 おゆみの中央病院
 膝関節・スポーツ医学センター



JSOA ニュースレター No.1 2023 年 11 月 30 日発行

編集 集：日本スポーツ整形外科学会広報委員会

菅谷啓之 (担当理事)、前達雄 (委員長)

赤木龍一郎、新井祐志、落合聡司、熊橋伸之、田崎篤、辰村正紀、中村俊康、橋本祐介、松下雄彦

発行：一般社団法人日本スポーツ整形外科学会

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-10-5 オンワードパークビルディング 株式会社コングレ内

TEL 03-3510-3744 / FAX 03-3510-3748 E-mail info@jsoa.or.jp URL <https://jsoa.or.jp/>